

< 認知症対応型共同生活介護用 >

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団 春陽会
事業所名	グループホーム 春光苑
訪問調査日	平成 19 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団 春陽会
事業所名	グループホーム 春光苑
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富536-2 (電話) 0994-68-8070

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年2月19日

## 【情報提供票より】19年10月1日事業所記

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月21日		
ユニット数	1 ユニット	利用者定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人春陽会中央病院 真愛会上園病院 西の原歯科
---------	---------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人が運営する総合病院の近くにあり、入り口の桜並木を抜けると、同系列のホームが三棟建っている。その一番奥が春光苑である。吹き抜けの高い天井には、青空の中に浮かぶ雲をイメージした模様が描かれ、明るく開放的である。職員は、ゆとりある雰囲気の中で入居者の気持ちを大切に想い、心と心のふれあいを大切に、モットーにしながら日々のケアにあたっている。在宅担当の医師との連携もできており、急変時も迅速に対応することが出来るため、入居者と家族が安心して過ごすことが出来るホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は4項目あり、すでに改善がされている項目もある。改善シートを活用して継続的に改善に取り組んでいる。特に、職員の継続的研修の受講については、職員の経験に応じて段階的に研修を行い、スキルアップに努めている。また、市町村の関わりについては、運営推進会議に出席してもらうなど、積極的に働きかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の用紙を全職員に配り、各自で評価した内容を管理者がまとめてスタッフと話合っている。取り組んでいきたい内容は2つあり、理念の見直しについては、来年1月に話し合う予定になっている。口腔ケアについては、職員の意識と技術を高めるための研修などが予定されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年10月から、2ヶ月に1回運営推進会議を開いている。家族から、職員の異動の際の情報が欲しいという要望があったので、ホームだよりに記載することを検討中である。また、町の介護担当者からの意見で、地域との交流を進めるために地域の方々にホームに招いて行事を行う計画を、12月に予定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年1回家族に集まって頂き、意見や要望など出して頂けるように配慮している。また、日常生活における家族からの苦情や要望などは、気づきノートに記載し全職員で共有し、ケアに活かしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には加入しているが、近隣の方々との交流を深めていきたいと、ホームに招いてクリスマス会と餅つき・蕎麦うちを行う予定であり、その為の案内状を作成し、町内に配ったり、病院の窓口に置いたりしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「相手の気持ちを大切に、ゆとりある雰囲気大切に、心と心のふれあいを大切に」という理念を作りあげている。		地域密着型サービスの役割を理解し、来年1月に理念の見直しを検討する予定になっているので、職員全員で話し合い独自の理念を作られることを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼は春華苑と3棟合同で交代で行われている。全員でリーダーが言った理念を復唱して、意識付けをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているが、地域との交流をさらに深めるために12月に、地域の方々をホームに招いてクリスマス会と餅つき・蕎麦うちを計画している。その為の案内状も作成され、配られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価の改善点は、全職員が改善内容を共有しており、研修については、現在も継続している。今回の自己評価については、全職員に評価表を渡し、各自で評価したあと管理者がまとめてスタッフと話し合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年10月より2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されている。家族からの要望など検討事項を話し合い改善につなげている。また、地域代表から地域の行事やボランティアなどの情報を得ることにより、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場福祉介護保険課の方が、運営推進会議に出席してもらうことにより、ホームの運営の実情などを知ってもらうことができ、また、地域の方々との交流についてもアドバイスを頂いたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	苑だよりの中に担当者が入居者の日々の様子を報告し家族に渡している。病院受診や往診があった時には、必ず報告している。金銭出納は3ヶ月に1度確認してもらい、コピーを渡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回開かれており、意見や要望を出してもらえる機会をもうけている。日々の家族の苦情や気づきは、気づきノートに記載し、全職員が共有してケアにかしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がここ1年さまざまな事情で多かったが、春華苑と春光苑の職員の制服の色が同じであるのと、3棟の交流が日頃からある為、入居者へのダメージは最小限に抑えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立て、職員の経験年数に応じて毎月課題を決めて段階的に行っている。外部研修に参加したときは、勉強会で報告し、全職員スキルアップに努めている。		春華苑と3棟合同で、年間計画を立てながら段階的に研修を行っていることで、職員のスキルアップに繋がっているが、新人教育のマニュアルがあれば急な場合にも対応ができ、さらなるサービスの質の向上につながるのではないかと期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム協議会に加入し、年4回研修が行われる。別のグループホームが独自でしている勉強会にも、職員が参加させてもらい交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ほとんど施設と病院からの入居であるが、馴染んでもらえるように家族・入居者に見学に来てもらったり、職員が施設や病院へ訪ねていくなど、安定的な利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、掃除の仕方や、料理が得意な方に味付けを教えてもらったりする事で、職員は業務に活かしている。また、それぞれの役割があって、タオルの交換や箱作り、夜のお茶の準備など、職員は、感謝の気持ちを言葉に表すことで共に支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活暦を作成し職員がいつでも見ることができるようにしている。入居者が自分で決められるように、出来るだけ耳を傾けるようにしている。また、日々の関わりの中で、言葉や様子など気づいたことをノートに記録しているので、それを参考にしながら思いの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成する時は、家族や本人に思いや意見を聞き反映させるようにしている。申し送りでの気づきノートを参考に、スタッフ全員でカンファレンスを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>安定していて変化のない人は、3ヶ月から6ヶ月で見直している。見直しが必要な場合は、職員・家族と話し合い見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅担当医と訪問看護ステーションの連携があり、定期健診は往診してもらっている。法人内の病院であれば、職員がつきそい受診しているが、他の病院でも緊急の場合は必要に応じて職員が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医には、基本的に家族が同行することになっているが、どうしても不可能なときは、職員が代行することもあり、受診内容については必ず家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	在宅担当医と訪問看護ステーションの連携があり、家族の希望があれば、看取りまで行うことができる体制は整っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の勉強会は行われている。入居者に対しての言葉かけがきついのではないかと、同系列のグループホームの職員から指摘がある。		言葉づかい、語尾の調子、声の大きさなど職員と話し合いをすることにより少しずつ良くなってきた様子が伺えるが、職員がプライバシーに対して理解を深め、意識付けをするためにも、プライバシーのマニュアルを作られることを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間、就寝時間は本人の意思を尊重している。買い物は週3回あり、散歩は庭や近所、ホーム内で歩行訓練をするなど希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、一人ひとりの嗜好を把握しているので苦手な食材は別なものに変えて提供している。食事形態も体調にあわせて工夫している。食事のときは、テレビをつけずに職員と一緒に同じテーブルを囲み、会話をしながら楽しく食事ができるように配慮している。3ヶ月に1度くらいは、全員参加して外食を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日と時間帯を決めているので、入居者には入浴時間が定着しているようであり、順番についてもこだわる人がいないのでスムーズに入浴ができる。拒む人に対しては、声かけに工夫している。		浴室は広く二人同時に入れるようになっているが、浴槽内に入るには壁に手すりを取り付けるなどの工夫が望まれる。また、脱衣所で順番を待つ間も入居者のプライバシーに配慮されることを望みます。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	タオルの交換、箱づくり、夜のお茶の準備などそれぞれできることの役割をもっている。レクリエーションでは、指運動や計算式などを行ったり、昔の歌を歌ったりして楽しみごとの場面づくりをしている。		生活歴のアセスメントは良く出来ているので、意欲低下のみられる入居者のやる気を引き出すことが出来るような、場面づくりに役立てられることを期待します。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気に合わせて、ホームの近辺を散歩したり、庭でお茶をしたり、法人の車を借りて、コスモス見物に行ったりしている。また、買い物や散髪など希望に添って支援をおこなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口はセンサーでキャッチし、モニターも2台ついているが、職員は入居者一人ひとりの外出傾向を把握しているので、窓も開けられるようにしてある。近隣の人にも理解を求め、連絡してもらえるようお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の火災を想定して年2回訓練を行い、消防設備の点検も年1回行っている。10月に近所でぼや騒ぎがあり、来年は近隣からの火災発生を想定した訓練をしたいと希望している。台風時のレンタル発電機も準備しつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の病院の栄養士が献立を作っているの、栄養のバランスは取れている。また、職員は食事に制限のある入居者の把握をしており、食事の摂取量は毎食記録している。水分補給については、摂取量の少ない入居者のチェック表を作成し、一日の水分量をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物はL字型で死角の部分はカメラが設置され、事務所で見ることができ、玄関のセンサーの音は事務所と台所で聞こえるようになっている。リビングは、食事のテーブルが一行に並べられており、大型テレビが置かれている横にはソファが置かれ、入居者がくつろげるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、和室にはフロアークッションを敷いたり、洋室にはユニット畳を置いたりして、使いやすいように工夫している。家庭から持ってきた布団や、仏壇などが置かれ、使い慣れた湯のみ、急須、クッション、家族の写真たてなど入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		